



魔法瓶の輸出

～近畿圏が数量・金額ともに経済圏別シェアNo.1!～



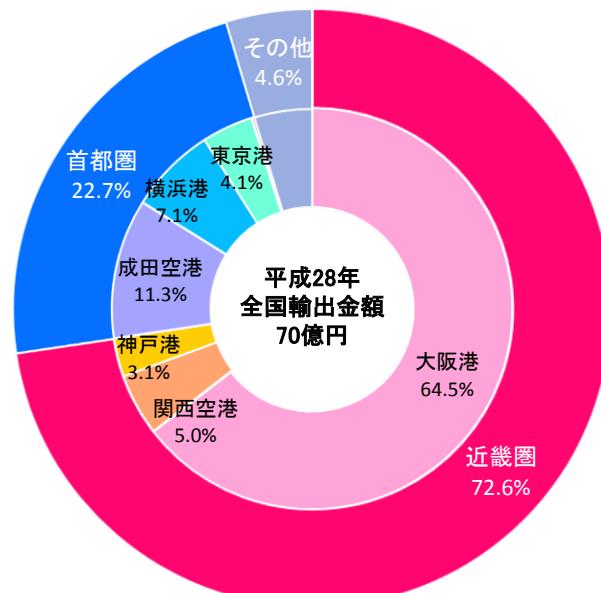
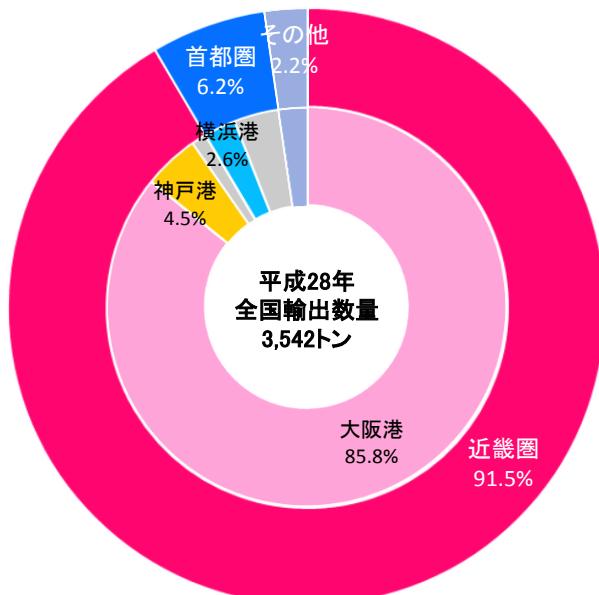
平成29年5月22日
大阪税関

少し体を動かすと汗ばむ季節となり、水分補給に冷たい飲み物でひと息入れる機会が増えました。近年のエコ意識の高まりや公共施設等での節電の取組みにより、スポーツやレジャー、職場にお茶やコーヒーを入れた水筒を持参している方も多いのではないでしょうか。飲み物の長時間の保温や保冷に活躍する魔法瓶は、店頭では輸入品を多く見かけますが、日本の魔法瓶は戦前から世界各国へ輸出されてきました。

今回は、大阪の主要な地場産業のひとつでもある魔法瓶の輸出について取り上げました。

経済圏別・港別構成比

平成28年の全国の輸出に占める近畿圏の割合は、数量で91.5%、金額で72.6%と経済圏別No.1となっています。港別では、大阪港が数量85.8%、金額64.5%と圧倒的なシェアを占めています。これは、業界によると魔法瓶の製造メーカーが大阪に集中しており、生産地から近い大阪港が利用されるためとのことです。



(注1)本特集における魔法瓶は、統計品目番号9617.00-000「魔法瓶その他の真空容器(ケース入りのものに限る。)及びその部分品(ガラス製の内部容器を除く。)」に分類されるものを集計しています。

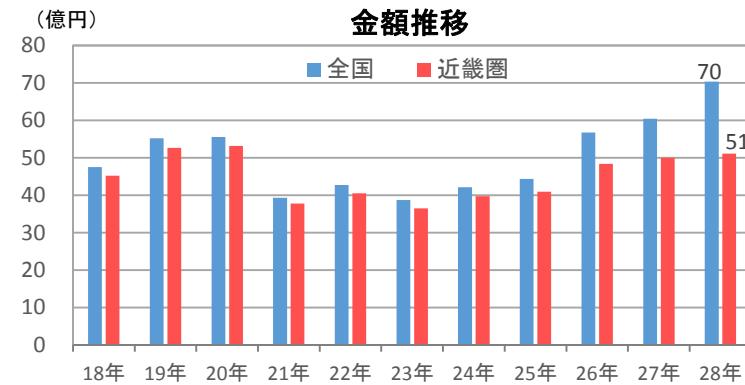
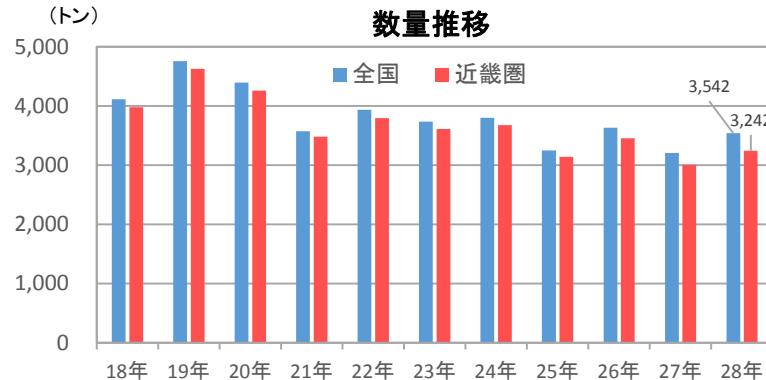
(注2)本特集における経済圏は以下の都府県を含むものです。

近畿圏: 大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏: 東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

数量・金額推移

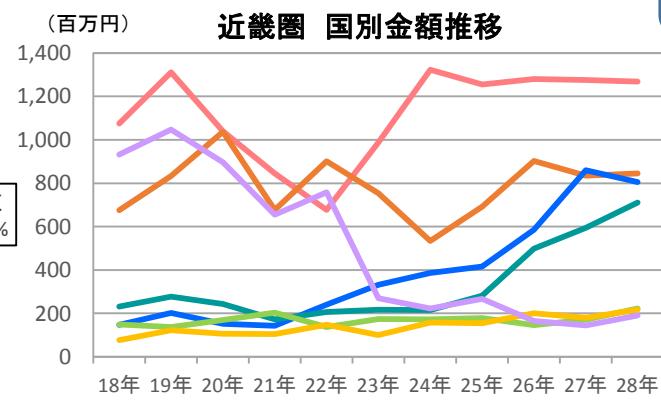
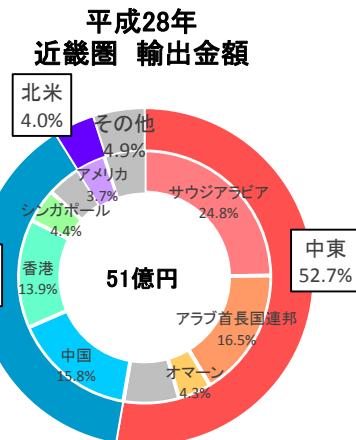
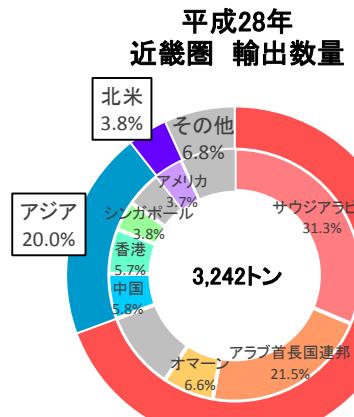
魔法瓶の輸出数量を10年前の平成18年と比較すると10年間で緩やかな減少傾向となっていますが、平成28年の全国の輸出数量は3,542トン(前年比110.4%)、近畿圏3,242トン(同107.9%)と2年ぶりの増加となりました。輸出金額は平成24年以降過去5年連続で増加しており、平成28年の全国の輸出金額は70億円(同116.4%)、近畿圏51億円(同102.1%)でした。



近畿圏 地域・国別構成比

平成28年の近畿圏地域別構成比をみると、数量、金額ともに中東、アジアで約9割を占めています。金額の国別構成比では、サウジアラビアが第1位、アラブ首長国連邦が第2位、中国が第3位となっています。平成18年以降の近畿圏の国別輸出金額推移をみると、アメリカが減少傾向、中国、香港向けは拡大傾向となっています。

業界によると、主要輸出先である中東諸国ではお茶やコーヒー等を飲むために、ガラス製の卓上型魔法瓶(1.0~2.5L程度)が重宝されることがあります。ガラス製の魔法瓶は金属反応がないため、飲料の風味を損なわず、日本製のものは保温効力、耐久性においても優れているため従来から評価が高いことです。

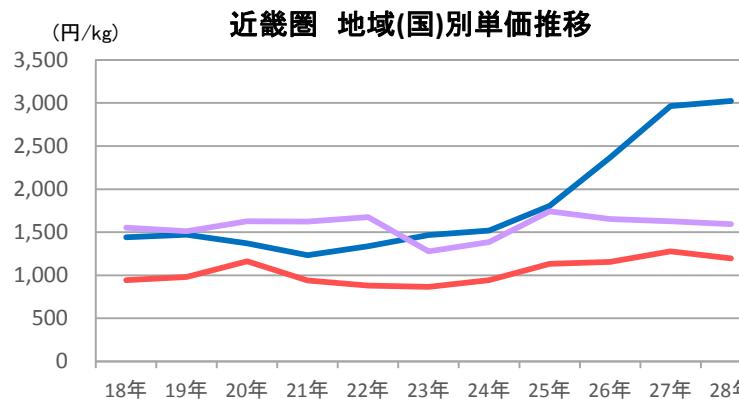


中東諸国では気候や信仰の影響もあり、特にお茶がよく飲まれているそうです。



近畿圏 地域(国)別単価推移

近畿圏地域(国)別単価(円/kg)の推移をみると、中東向けの単価が一番低く、アジア向けは近年高めとなっています。業界によると、中東向けは比較的低価格で重いガラス製の卓上魔法瓶の輸出が多く、アジア向けはここ数年、軽量で単価の高いステンレス製携帯用魔法瓶の輸出が増加しているとのことです。

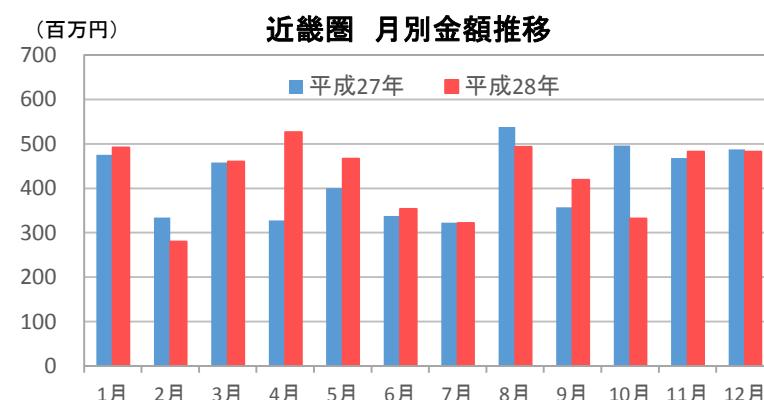
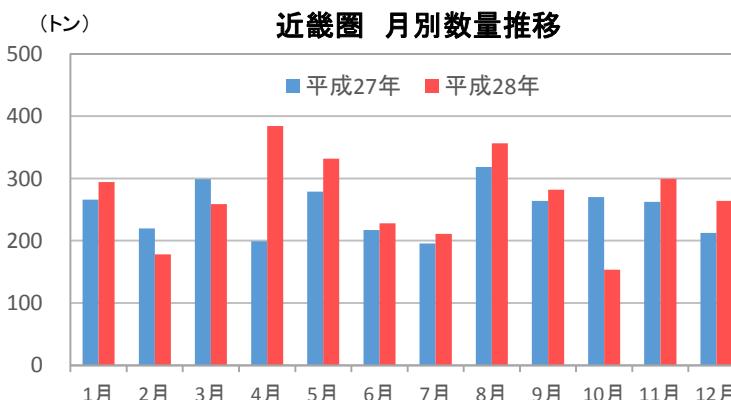


地域(国)別の主な輸出製品の仕様

地域(国)	素材	形状	容量
中東	ガラス製	卓上型	1.0L～2.5L
アジア	ステンレス製	携帯用	0.5L～1.5L
アメリカ	ステンレス製 ガラス製	携帯用 卓上型	0.5L～1.5L 1.0L～2.5L

近畿圏 月別推移

過去2年間の近畿圏月別推移をみると、年毎にはらつきはあるものの、春先や8月頃、年末に輸出が増える傾向にあります。業界によると、中東諸国ではラマダン(断食月)明けに身の回り品を新調する習慣があることからラマダンの2～3か月前の春先に増え、8月頃は秋の新学期や秋冬の商戦を控え増加し、年末は中国、香港向けの春節需要で増加したとのことです。



魔法瓶ミニ知識

歴史

ドイツからガラス製魔法瓶が輸入されたのち、国産初の魔法瓶が誕生したのは1912年と言われています。当時大阪はガラス工業の中心地で、電球製造の技術を応用し、ガラス製魔法瓶の製造に成功し、以降大阪で日本の魔法瓶製造は発展してきました。

当時の魔法瓶は国内需要が少なく、主に東南アジア諸国へ輸出されました。欧洲から東南アジア諸国に移住していた人々が真水を沸かして飲用したり、氷を保冷するために魔法瓶は必需品だったそうです。

第1次世界大戦が始まり欧洲からの魔法瓶の輸送が困難になると、日本製の魔法瓶の需要が高まり、輸出が急増しました。第2次世界大戦から戦後の混乱期にかけて魔法瓶の製造が中断されたものの、1947年頃には輸出も再開されました。その後、これまでガラス職人に頼っていた中瓶の製造工程を自動化することにより大量生産が可能になり、国内においても魔法瓶の普及が進みました。そして魔法瓶メーカー各社により広口魔法瓶やエアーポット、ステンレス製魔法瓶等、またデザインも花柄等様々な魔法瓶が次々と開発されていきました。

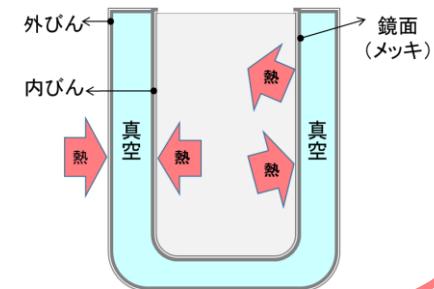
仕組み

内びんと外びんの間を真空状態にすることにより、空気を伝わって熱が逃げるのを防ぎ、長時間の保温、保冷が可能です。

さらに、真空部分内部を鏡面加工することや真空部分に銅箔等を挟むことで、輻射により熱が逃げようとするのを内部に戻し、閉じ込めることができます。



大阪天満宮正門前にある
「大阪ガラス発祥之地」の石碑
大阪天満宮の前でガラスの製造を始めた長崎商人の播磨屋清兵衛が大阪のガラス商工業の始祖と言われています。



おわりに

日本の魔法瓶は、戦争により一時中断した時期もありましたが、約100年前から世界各国へ輸出されてきました。

業界によると、日本の魔法瓶は他国製のものに比べ高価格であるものの、高品質な「日本製」であることが海外で受け入れられる大きなポイントであるとのことです。特にここ数年は、インバウンド旅行客により日本製魔法瓶の認知度が上がり、中国、香港向けの輸出が伸びているとのことです。そして、近年は中国、東南アジア製魔法瓶の台頭や模倣品の横行、またペットボトル飲料の普及により、輸出量は全体として減少傾向にあるものの、「日本製」への信頼度は健在で、新たな輸出先の開拓を含め世界各国への輸出をさらに伸ばしていくことです。

【データ集】

年別輸出数量実績

	全国		近畿圏		
	トン	前年比	トン	前年比	全国比
平成18年	4,114	93.1%	3,980	95.3%	96.7%
平成19年	4,761	115.7%	4,626	116.2%	97.2%
平成20年	4,394	92.3%	4,262	92.1%	97.0%
平成21年	3,573	81.3%	3,483	81.7%	97.5%
平成22年	3,937	110.2%	3,794	108.9%	96.4%
平成23年	3,735	94.9%	3,612	95.2%	96.7%
平成24年	3,799	101.7%	3,679	101.9%	96.8%
平成25年	3,248	85.5%	3,144	85.5%	96.8%
平成26年	3,636	112.0%	3,457	110.0%	95.1%
平成27年	3,208	88.2%	3,004	86.9%	93.6%
平成28年	3,542	110.4%	3,242	107.9%	91.5%

年別輸出金額実績

	全国		近畿圏		
	百万円	前年比	百万円	前年比	全国比
平成18年	4,756	94.0%	4,523	96.6%	95.1%
平成19年	5,523	116.1%	5,266	116.4%	95.4%
平成20年	5,557	100.6%	5,316	100.9%	95.6%
平成21年	3,929	70.7%	3,778	71.1%	96.2%
平成22年	4,272	108.7%	4,051	107.2%	94.8%
平成23年	3,869	90.6%	3,646	90.0%	94.2%
平成24年	4,215	109.0%	3,978	109.1%	94.4%
平成25年	4,436	105.2%	4,090	102.8%	92.2%
平成26年	5,673	127.9%	4,839	118.3%	85.3%
平成27年	6,045	106.5%	5,003	103.4%	82.8%
平成28年	7,034	116.4%	5,109	102.1%	72.6%

近畿圏 地域国別 輸出数量(平成28年)

順位	地域・国名	トン	前年比	構成比
地域別	1 中東	2,249	113.1%	69.4%
	2 アジア	649	95.4%	20.0%
	3 西欧	150	101.1%	4.6%
	4 北米	124	137.0%	3.8%
	5 アフリカ	41	66.6%	1.3%
	6 中南米	18	79.2%	0.6%
	7 大洋州	10	85.2%	0.3%
	8 中東欧・ロシア等	1	126.8%	0.0%
国別	1 サウジアラビア	1,015	102.8%	31.3%
	2 アラブ首長国連邦	697	111.0%	21.5%
	3 オマーン	213	135.6%	6.6%
	4 中国	188	97.3%	5.8%
	5 香港	186	108.8%	5.7%
	6 シンガポール	122	108.8%	3.8%
	7 アメリカ	119	134.0%	3.7%
	8 クウェート	113	110.4%	3.5%
	9 パキスタン	92	87.8%	2.8%
	10 カタール	82	431.1%	2.5%

経済圏別・港別輸出数量構成比(平成28年)

	トン	全国比
全国	3,542	100.0%
近畿圏	3,242	91.5%
大阪港	3,038	85.8%
神戸港	161	4.5%
その他	43	1.2%
首都圏	221	6.2%
横浜港	92	2.6%
その他	129	3.6%
その他	80	2.2%

経済圏別・港別輸出金額構成比(平成28年)

	百万円	全国比
全国	7,034	100.0%
近畿圏	5,109	72.6%
大阪港	4,539	64.5%
関西空港	352	5.0%
神戸港	218	3.1%
その他	0	0.0%
首都圏	1,600	22.7%
成田空港	794	11.3%
横浜港	498	7.1%
東京港	288	4.1%
その他	20	0.3%
その他	325	4.6%

近畿圏 国別輸出金額推移

(単位:百万円)

	サウジアラビア	アラブ首長国連邦	中国	香港	シンガポール	オマーン	アメリカ
平成18年	1,076	676	148	232	149	76	931
平成19年	1,311	834	202	278	137	123	1,047
平成20年	1,040	1,036	153	243	170	106	897
平成21年	845	677	144	173	203	105	655
平成22年	676	901	241	207	137	148	759
平成23年	988	753	332	217	174	100	269
平成24年	1,323	535	387	215	172	157	223
平成25年	1,255	692	416	282	178	154	267
平成26年	1,280	903	586	498	147	201	166
平成27年	1,276	835	860	594	171	181	145
平成28年	1,268	845	806	711	223	217	190

近畿圏 地域(国)別輸出単価推移

(単価:円/kg)

	世界	中東	アジア	アメリカ
平成18年	1,136	944	1,442	1,554
平成19年	1,138	980	1,472	1,511
平成20年	1,247	1,163	1,372	1,627
平成21年	1,085	941	1,232	1,624
平成22年	1,068	881	1,338	1,677
平成23年	1,009	866	1,469	1,279
平成24年	1,081	943	1,517	1,385
平成25年	1,301	1,134	1,806	1,741
平成26年	1,400	1,155	2,367	1,654
平成27年	1,665	1,278	2,964	1,626
平成28年	1,576	1,197	3,023	1,593

近畿圏 月別輸出数量

(単位:トン)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	266	220	299	199	279	217	196	318	264	270	263	213
平成28年	294	178	259	384	332	228	211	357	282	153	299	264

近畿圏 月別輸出金額

(単位:百万円)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	475	334	458	327	401	338	323	538	357	496	468	487
平成28年	492	280	460	526	466	353	322	493	419	332	482	482



※本資料を他に転載するときは、大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課まで。(電話06-6966-5385)

大阪税関ホームページ(<http://www.customs.go.jp/osaka/>)